

## 2023 年度北陸支部活動開催報告

主 催：公益社団法人日本語教育学会  
開 催 日：2023 年 12 月 16 日（土）13:00～16:00  
会 場：オンライン開催  
参加人数：40 名（会員 36 名、一般 4 名）

北陸支部は 2023 年 12 月 16 日（土）にオンラインで「パーソナリティを協働学習にどう活かせるか」というタイトルで支部活動を実施しました。北陸以外の地域からの参加も多く、大変盛況な会となりました。本活動は、3 つの事例報告および全体討論という構成で行いました。当初予定していた公演は、講演者の都合により、キャンセルとなりました。

今回の支部活動では学習者の「パーソナリティ」に注目し、3 つの事例を手掛かりに、協働学習の授業設計、協働学習活動における教師の指示を見直しました。さらに、パーソナリティという新しい観点から、今後の協働実践のあり方や教師の役割について考察しました。

事例紹介においては、1) 内向的学習者の対話する意思に影響を与える要因—日本語学習者のケーススタディより—（報告者：田中信之氏/富山大学）、2) 外向的でない学習者の P R とは？（報告者：浅津嘉之氏/関西学院大学）、3) 日本人女子学生の場合 短期大学部 国文科 必修科目「文章表現」での実践から（報告者：中尾桂子氏/大妻女子大学）、という 3 つの事例について紹介されました。田中氏の報告では、実践の改善を目指したケーススタディをもとに、内向的学習者の話すことに対する意識から WTC（Willingness to Communicate）に影響する要因を探ることについて紹介がありました。浅津氏の報告では、学部 1 年留学生向けの「日本語レポートライティング」という科目でのピアレスポンスでの教師のかかわり方に関するケーススタディについて紹介がありました。中尾氏の報告では、協働活動での発言をパーソナリティとの関連からとらえた分析について紹介がありました。

報告後の全体討論では、コメンテーターの大嶋弥生氏（立命館大学）からの 3 名の報告者に対する質問やコメントで活発な討論が行われました。

終了後のアンケートでは、報告で示された事例および全体討論が参加者にとって参考になったことが伺えるコメントが多くあったことから、今回の企画は有意義であったと考えますが、一方で、全体討論の時間が少なかったという反省すべき点も指摘されました。いただいたご意見を今後の活動の参考に考えていきたいと思えます。

最後に、今回の支部活動にご参加くださった皆様、実施にご協力くださった方々に心より感謝申し上げます。 （報告者：北陸支部活動運営協力員 ヨフコバ四位エレオノラ）